

## 子ども・若者

神谷明宏（児童学部児童学科）

### 1. 実態と課題

松戸市においては乳幼児の子育て支援施策については、官民が協働して環境整備を行い、充実したサポートが行われている。

しかし小学生以上の子育て支援施策に関しては、皆無と聞いていいほどの貧しい現状がある。共稼ぎ家庭に対する支援活動としては放課後児童クラブが設けられているものの、大半のクラブが小学校3年生までが対象で、それ以上の学年に対して支援活動を行っているクラブは数カ所に限られている。子ども会活動に関しても活動内容が男子はソフトボール、女子はドッチボールと活動内容が限られている組織が多く、これらのスポーツ活動に興味がない子どもにとっては魅力のないものとなっている。例えば、卓球やバスケットなどを遊びとして行いたい子どもにとっては青少年センターの体育館等が考えられるが、5人以上の登録会員による事前申し込みが前提となっている松戸市の実態は自由利用の場にはなっていない。また、スポーツ以外の活動に興味のある子どもにとっては、児童館がその中核的な役割を担う施設として考えられるのであるが、松戸市には公設の児童館が1館あるのみでその規模からも高学年の子どもにとって魅力のある施設とは言い難い。

これらの事から松戸市が掲げる「子育てに優しい街」のスローガンは乳幼児までの年齢に限られており、小学校高学年以上の青少年に対する子育て施策は充実しているとは言い難い実態がある。

そこでこのような現状をふまえ、本ワーキンググループでは、市内の青少年の放課後活動に関わる組織団体の方々が意見交流をすることで、青少年活動の課題が明らかになった。驚くことに青少年活動の中核を担う組織団体の方々が市との連携はあるものの、一同に会して青少年問題について意見交換をしたのは本ワークショップが初めてであるということが語られた。その原因として考えられることの一つとして各団体に市より交付される補助金とその団体固有の活動に限られ、なかなか共同事業という形を生み出すことが困難な状況であることがあげられる。こうしたことが長年積み重ねられる事により、歴史のある活動であっても参加する青少年が分断され、一つ一つの組織団体では参加者数の減少を招いている事も想定された。

以上の検討から次の課題を設定することができた。

①連絡会議、連携会議の必要性

②居場所づくりの必要性

（フラッと集まったり、議論したりする場、拠点を確保する必要がある）

③青少年の参画という視点に立って、各団体が協力し合う

このような課題解決のためには青少年問題について各組織団体の指導者が共通の学習機会を得る必要性があり、指導者間での情報提供・交換の機会が定期的に設けられると共に松戸市全体の青少年活動を活性化させる事業の開発が求められる。

### 2. コンセプトと目標設定

以上の問題意識に基づき現在、青少年に対して年齢別に行われている支援活動を総合的に考える必要がある。さらに支援活動に取り組み様々な組織団体の力を一本化することが重要である。具体的には官民協働による連携会議を早急に開催し、事務局内に青少年の放課後活動に関する企画提案等を行うワーキングチームを設ける必要を確認した。さらに対象となる青少年の年齢を考慮し、青少年自身が松戸市のまち作りに参画できる仕組みを構築してゆく必要性についても議論が進められた。これを早急に実現するためには、各市町村の中でユニセフが提唱する「子どもに優しい街」づくりをすすめる様々な子ども参画の事業を展開している事例がある。これらの先進事例を検討し、ふるさと松戸に愛着を持つ子どもたちをいかに育成するかということについて検討しなければならない。

①青少年の放課後活動についてのワーキングチームの創設

②先進事例の視察と研修

③青少年の放課後活動や青少年の参画事業の開発

### 3. 具体的な事業

上記のコンセプトを推進するためには地域が主役となつて、市や大学・学生など様々な主体と連携しながら運営する子どもの居場所づくりが重要である。子ども達にとって居心地がよく、落ち着くことができる「身近なカフェ」のような場所で、信頼できる大人が見守る中で異年齢の子ども達が一緒に遊び、そして学びながら子どもが育つことができる様々な居場所づくりを目指し市と青少年活動をすすめる組織団体が協働する必要がある。併せてこれらの活動

を支える支援者のスキルアップを図るために、各種の学習・研修の場を組織団体の壁を越えて松戸市全体で開催する事が求められる。さらに事務局には組織団体に所属する特技指導者を登録するシステムを創設して人材バンクを設け、相互の活動に協力し合う体制づくりを進める必要もある。これらの実現可能な体制を作るために、各種事業を推進する専門職員のいる拠点作りを進めることであろう。

- ①子ども育成支援活動システムの一本化
- ②各種の支援活動にあたる指導者研修を定期的に行う
- ③特技指導者の人材バンク創設とその活用
- ④子ども育成支援活動の専門家のいる拠点作り



松戸市各種団体連携研究会・ワークショップ  
「子ども・若者グループ」1日目の様子（2014年8月30日実施）

#### 4. 期待と成果

現在松戸では学年が上がると、近隣大都市へ引っ越していく家族が相当数ある。青少年自身がここで生活を続ける事を望むような居場所や活動を推進することによってはじめて、これらの人口流出を食い止め、松戸をふるさととして考える次世代を育成することが可能となる。また、よりよいまちづくりをすすめるといった大きな視点を持って、その当事者としての青少年が力を発揮できるように支援する大人が養成されることで、地域貢献を担う人材が途切れることなく育成されてゆくシステムが構築される。

異世代間の交流を通して、将来の松戸のまち作りを支えるリーダーとなる青少年を育てられる



松戸市各種団体連携研究会・ワークショップ  
「子ども・若者グループ」2日目の様子（2014年8月31日実施）

資料4 子ども・若者に関する事業(案)のクドバスチャート

<クドバスの成果>

事業例としては、次の13点が挙げられた。

1. 連携会議
2. 子ども参画
3. 居場所づくり
4. 情報交流の拠点の設置
5. 広報活動1「子ども向け」
6. 広報活動2「大人向け(団体間)」
7. スキルアップ講習会1「方法論」
8. スキルアップ講習会2「内容」
9. 人材バンク
10. ボランティア育成
11. イベント開催
12. 見学・調査・交流
13. 出版物

仕事	能力																			
	1-1	A	1-2	A	1-3	A	1-4	A	1-5	A	1-6	A	1-7	A	1-8	A	1-9		1-10	
1 連携会議	子ども活動に関わる団体の連携会議の定期的な開催		連携会議を定期的に持つ		団体・行政・専門家とのネットワーク会議		子どもの居場所のネットワーク		定期的に関係団体の話し合いをする		行政・団体・専門家間の交流会の開催		情報交換会の開催		青少年団体の定期的交流・学びの場を持つ					
2 子ども参画	子どもを含めた運営会議		子ども権利条約の学習会の開催		子ども参画の事業(子どものまち)の開催		子どもの提案のイベント開催		子どもからの意見箱設置				2-7		2-8		2-9		2-10	
3 居場所づくり	子どもの居場所モデル事業の開催		子どもの居場所を確保する		他団体・行政と共に空き教室の有効活用		小学生の居場所づくり		中学生の居場所づくり		居場所の学びの場の提供		異世代がつどう子どもを核とした居場所づくり		支所毎の児童館、もしくはそれに類似する場の開設		空き店舗を利用した子どもカフェの開設		廃バスを用いたプレイバスによる拠点づくり	
	3-11	A	3-12	A	3-13		3-14		3-15		3-16		3-17		3-18		3-19		3-20	
4 情報交流の拠点の設置	会議を運営する事務局をつくる		取りまとめる行政担当を決める		ワーキングチーム(事務局)設置		支所毎に活動や情報交換の可能な拠点の設置				4-6		4-7		4-8		4-9		4-10	
5 広報活動1「子ども向け」	5-1	A	5-2	A	5-3	A	5-4	A	5-5	A	5-6	A	5-7	A	5-8	A	5-9	A	5-10	A
	市内の小中高ヘチラシ配布(できるだけ定期的)		小中高生の居場所を明確にしたもの作成		「大人向け(市民)」		「まなびいネット」活用		小学生からの子育てとポータルサイトの作成		団体の情報提供、HPの作成		青少年イベントの情報発信のSNS、HPなどをつくる		SNSを使い、情報の一元化		B:保護者に呼びかける広報活動		B:広報をもっと手に届くように工夫する	
	5-11	A	5-12	A	5-13		5-14		5-15		5-16		5-17		5-18		5-19		5-20	
	活動場所の周知(広報)		外国人向けの活動紹介																	
6 広報活動2「大人向け(団体間)」	6-1	A	6-2	A	6-3	B	6-4		6-5		6-6		6-7		6-8		6-9		6-10	
	団体・行政・専門家間の連携を図るためのメールマガジン		みんなの団体で広報活動		団体をPR															
7 スキルアップの講習会1「方法論」	7-1	A	7-2	A	7-3	A	7-4	A	7-5	A	7-6		7-7		7-8		7-9		7-10	
	青少年活動の定期的なワークショップ		年数回、指導者向け研修会を行う		子ども活動に関わる指導者のスキルアップ講習会の開催		指導者スキルアップ養成講座の開催		課題別の分科会の開催											
8 スキルアップの講習会2「内容」	8-1	A	8-2	A	8-3	A	8-4	A	8-5	A	8-6	A	8-7	A	8-8	A	8-9	A	8-10	
	子どもの権利条約の学習会の開催		*子どもの参画の学習会の開催		子どもの置かれた現状課題を共有するための学習会の開催		大学教員を利用した無料の講座開催		子どもの活動理解のための保護者向け講習会の開催		子どものカウンセリング研修		安全講習会		公園や農家など市内の自然を利用した講座		公園を利用した自然遊びのワークショップ			
9 人材バンク	9-1	A	9-2	A	9-3	A	9-4	A	9-5		9-6		9-7		9-8		9-9		9-10	
	子ども活動に関するリーダーバンクの登録と利用		指導者と指導内容の一覧を作成する		人材バンク派遣事業		社会的資源活動													
10 ボランティア育成	10-1	A	10-2	A	10-3	A	10-4	A	10-5	A	10-6	A	10-7	A	10-8		10-9		10-10	
	地域のボランティアの育成・参画		子どもの居場所コーディネーターの育成		団体をコーディネートするスタッフを育成		高学年生のボランティア活動		大学生のインターンシップ受け入れ		シニア層のリーダー育成講座の開催		子どもたちの育成							
11 イベント開催	11-1	A	11-2	A	11-3	A	11-4	A	11-5	A	11-6	A	11-7	A	11-8	A	11-9	A	11-10	A
	子どもが参画するイベント開催		子どものイベントに地域の人々を巻き込む		イベントを保護者とともに作る		三世代交流		4つの大学と市民団体の交流		町内にある青少年活動、NPOと子ども会のつながり		学校・地域・保護者の連携		青少年活動を支援するイベント開催		防災訓練参加		避難所体験活動の実施	
	11-11	A	11-12	A	11-13	A	11-14	A	11-15	A	11-16	A	11-17	A	11-18	A	11-19	A	11-20	A
	父親向けあそび教室		地域のまつりに参加する		警察と連携、通学安全教室		学校を開放して定期的に学校で多世代交流する		青少年団体のマスコットづくり		異文化交流イベント		梨農家での農業体験		中高生の居場所づくり		学校の行政協力「通学合宿」		避難所体験活動の実施	
12 見学・調査・交流	12-1	A	12-2	A	12-3	A	12-4	A	12-5	A	12-6	A	12-7	A	12-8		12-9		12-10	
	各団体の活動現状を見学及びアドバイス		青少年活動が上手いところを見学		活動見学会の実施		近隣市町との交流		先進市の見学会の開催		学社融合を図り、市内の企業や文化財を知る		地域センター、市の施設を知る							
13 出版物	13-1	A	13-2	A	13-3	A	13-4		13-5		13-6		13-7		13-8		13-9		13-10	
	子ども活動に関する情報誌の発行		青少年関連団体の連絡一覧を作成		各団体の特徴、特技を知る本づくり															

注:2014年8月、青少年グループ 神谷明宏(聖徳大学)、秋戸巴美(板橋区社会教育指導員)、阿部寛之(松戸市教育委員会)、石川静枝(NPO 法人子育てさぼーとハーモニー)、野中美幾子(NPO 法人子どもの環境を守る会Jワールド)、村松忠信(松戸市スカウト連絡協議会)、山口恵理子(松戸市社会教育委員会)、山田明夫(松戸市子ども会育成会連絡協議会)、渡辺洋子(NPO 法人子どもとまつど)計9名で作成。